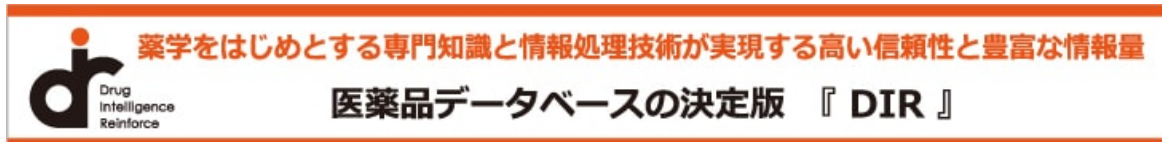


と。また、投与経路は静脈内注射を原則とすること。なお、経口投与が可能で効果が十分と判断された場合には、速やかに経口投与にきりかえること。

2) 静脈内注射時：血管痛があらわれることがあるので、注射速度はできるだけ遅くすること。

【保管上の注意】

冷所保存。



Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.